

記号式を仮に導入した場合の導入コストと開票作業短縮によるメリットとの比較

選挙管理委員会事務局

1 記号式を導入した場合の導入コスト

(1) 投票用紙印刷費

現在の選挙人名簿登録者数 約194,000人

当日投票用の記号式投票用紙を選挙人名簿登録者数の約70%である136,000枚、期日前投票・不在者投票用の自書式投票用紙を約30%の59,000枚印刷し、それぞれ単価5円とする。

投票用紙の印刷枚数の配分については、令和3年10月31日執行の神戸市長選挙（記号式投票を導入）の例による。

現状 @5円×194,000枚×1.1=1,067,000円

記号式導入時 @5円×136,000枚×1.1= 748,000円

@5円×59,000枚×1.1= 324,500円

合計 1,072,500円

差引 5,500円

(2) その他必要になる可能性のある経費

ア 投票方法の周知に係る経費（広報たからづか臨時号の誌面の増等）

イ 作業量の増大による職員の時間外勤務手当に係る経費

2 開票作業短縮によるメリット

(1) 令和3年10月31日執行の神戸市長選挙は、衆議院議員総選挙と同日であったため、投票用紙読取分類機の不足等により、通常の市長選挙の開票より時間がかかったとのことである。

本市において市長選挙単独で行うことを想定した場合、2種類の投票用紙の開票を行うため、投票用紙読取分類機の効率的な使用が難しく、従来より開票作業に時間がかかる可能性がある。

(2) 仮に開票作業が30分短縮すると仮定した場合、開票事務従事者の報酬が削減できる。

該当する事務従事者を66人、その土日祝日の深夜の報酬額を3,232円/hとして試算すると、3,232円÷2×66人=106,656円の削減となる。